語・歴史・考古の諸學に亙つてゐたのでありまして、かゝる範圍に於てペリオ教授を最高峰の一人に推すのに、何人も異論のないことゝ信じます。フランスの地理學會の會報 Annual de la Société Géographique 一九四五年一〇月—一二月號に、同會長ペリエ氏のペリオ教授に對する追悼の辭が載せられてあるのを、東京の石田幹之助教授から送つて貰つたのでありますが、その中に、「吾々は彼が學界及びフランスの至寶として、なほ永く健在することを期待してゐた」こと、「彼がフランス東方學界の最も光輝ある代表者であつた」こと、「マスペロ、グラネー等がペリオよりも年若くして然も先立つて永眠した」ことなどを述べて、深い哀悼の意を表して居ります。これによつても如何に彼がフランス東方學界の第一人者として尊敬せられてゐたかを知るに足ると思ひます。今日我が財團法人東方學會京都支部の第一回講演會に於て、かゝる題目の下に一場の講演を試みますことは、かゝる巨匠の永眠を哀悼致しますと共に、氏が我が東方學界との間に誼が深く、絶えずその成績を世界に紹介し、我が學界をして世界に重きを致さしめた上に寄與するところ甚大であつたことを追念して、感謝の意を併せ表したいと思ふが爲であります。

先づその略歴を述べますと、その家は元來ノルマンディの出身でありますが、彼自身は一八七八年卽ち明治十一年にパリで生れ、二十一歳で印度支那の考古學調査員となり、一九〇〇年にハノイのフランス極東學院 L'Ecole Française d'Extrême-Orient が設立せられるとその研究員になり、翌年には北京に在つて拳匪事件に遭遇し、公使館區域の防禦に武勇傳を殘し、その功によつて若年ながらレジョン・ド・ノール十字章を受けました。ついで極東學院紀要 Bulletin de l'École Française d'Extrême-Orient の編輯に參加し、中國の歴史及び書籍の解題に關す